

陶磁器が語る城内のくらし

川越城の二の丸に当たる場所(現在の市立博物館付近)で行われた発掘調査では、柱穴や大型土坑、地下室などの遺構が密集して発見されました。

これらの遺構からは、瓦や崩れた壁、柱などの建築部材や多量の焼けた土、炭化物とともに、たくさん陶磁器が出土しました。遺構で出土したこれらの物は、二の丸御殿で使われていたようで、弘化三年(一八四六)の火災によって建物が壊れた際、まとめて捨てられたものと考えられます。

出土した陶磁器の特徴は、人をねぎらうために使われた器が多いということです。左の写真にある鉄呉須絵柳文石皿のように食膳で使われた物のほか、せん茶に使われた信楽系の小杉椀や相馬大堀系緑釉の土瓶、たばこの火種を入れる肥前系の青磁の火入れ、灯火具に使用する菜種油の運搬に使われた瀬戸・美濃系灰釉徳利などが出土されています。



鉄呉須絵柳文石皿

出土したこれら多くの陶磁器は、川越城内の人々や家臣をはじめ、城に参集した人たちのために用意された物とされます。

世界の国から、こんにちは!



ベトナム/チャン・ティ・ビック・グアさん

2年前に来日しました。ベトナムは経済開放が進み、外国の企業が進出してきています。私も日本に来る前は、日本の企業で働いていました。

出身地のホーチミン市は活気のあるまちです。また、走っているバイクの数が多く、外国から来た人は驚きます。ベトナム人は、まじめで勤勉、忍耐強い国民性だといわれています。そこは、日本人と似ているかもしれません。

現在、経営学を勉強しています。将来は、日本とベトナムの橋渡しをしたいと思っています。

\*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは15ページ・18ページ、相談は27ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・内線2141

どんぐり

編集後記

ことしの関東地方の梅雨明けは、平年より12日遅い8月1日でした。観測史上4番目に遅いそうです。8月になると、連日猛暑が続き、テレビでは熱中症のニュースが報道されました。まだまだ、暑い日が続きます。水分を多めに摂取し、日差しが弱くなった夕方に出かけるなど、健康に気を付けることが大事です▶日中の夏の暑さをしのいでくれるのは、冷房。市役所では、夏の間は28度に設定し、節電に努めています。庁舎の中は少し暑いかもしれませんが、来庁時にはご理解とご協力をお願いします▶多くの催しが行われた、夏休みもすでに終盤になりました。皆さんも、たくさんの思い出ができたのではないのでしょうか。これからはイベントの季節。なるべく多くの催しをお伝えするため、広報担当は取材に走り回ります。